

## 1、答申の目的は何ですか

「鳥取市全域の市立小・中学校・義務教育学校の学校配置及び校区の設定について」

- (1) 早急に議論が必要な学校区のあり方について
- (2) 鳥取市全域の中長期的な学校区のあり方について

諮問  
教育委員会

答申  
校区審議会

鳥取市立学校の配置及び校区の設定について(答申)

2年間、14回の審議 (会長 鳥取大学 本名俊正名誉教授)

## 3、どうして20年後なのですか

学校の問題は地域で時間をかけて話し合うべきです。



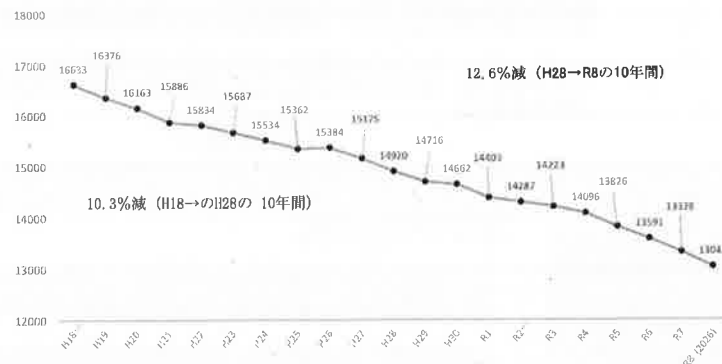
そのために、今から、20年後を見据えた学校のあり方を審議いただきたいです。

2040年頃

- ・鳥取市の都市計画マスタープランの目標年次
- ・高齢人口のピーク
- ・労働人口の大幅な減少期  
→子どもがいないだけでなく、先生もいない
- ・学校の老朽化による更新時期
- ・地方公務員数減少のピーク  
→今から少しずつ議論を始めることが必要

## 2、一番の課題は何ですか

鳥取市の児童生徒数の現状



令和7年までは実数が分かっています

## 4、今のままではダメですか

児童生徒数の減少による学校の小規模化



- ・きめ細やかな指導
- ・運動場、プール等施設の空間的ゆとり
- ・発表の機会、リーダーになる機会



- ・複式学級の増加
- ・集団での学びや経験の不足
- ・人間関係の固定化



しかし、それぞれの学校が、地域づくりの核であり、文化の拠点であり、防災拠点である。



地域で存続を検討する場合は、児童の教育環境に配慮した魅力ある学校づくりに努める必要がある (教育の機会均等)

2040年頃

## 5、基準はどうやって決めますか

鳥取市校区審議会では、法令や国の基準等を参考にして、公立学校の適正規模について以下のような議論を進めました。

	小学校	中学校	義務教育学校
1校あたりの学級数	12～18学級	9～18学級	9～27学級

ただし、1学年の人数が極端に減少する場合は、学校統合の適否について検討する。

20年後には何校必要？

## 9、気高地区の答申のポイントは

(答申内容)

逢坂小学校、宝木小学校、瑞穂小学校、浜村小学校の4校は、気高地域の中長期的な姿を見据え、新設統合する。

付記

- (1) 地域における検討組織を速やかに設置し、統合の方法、時期、新設校の位置等について協議すること。
- (2) 検討組織においては、この地域での中長期的な児童生徒数の減少の状況を踏まえ、小中一貫型の学校の設置についても選択肢の一部として検討すること。
- (3) 学校の新設については、設置者である教育委員会と検討組織での協議のもと、相当の時間をかけて行う。しかし、逢坂小学校の小規模化の状況は緊急の課題であることから、同校児童に関しては協議が進行している間も、前倒して浜村小学校に編入することも検討すること。

## 8、早急に解決しないといけない課題は何ですか

### 諮問事項

「鳥取市全域の市立小・中学校・義務教育学校の学校配置及び校区の設定について」

### (1) 早急に議論が必要な校区のあり方について

### (2) 鳥取市全域の中長期的な校区のあり方について

- ①千代川以西で城北小学校・北中学校に通学している児童生徒について
- ②小規模小学校について
- ③中心市街地の小学校について

## 10、今後の動きは決まっていますか

逢坂小学校において前倒し編入について協議・決定

各校の考える会に説明

教育委員会において4校統合を正式に決定(予定)

・統合の方法、逢坂小学校を前倒しするか最終確認

令和2年12月頃

統合準備委員会(前期) 場所や学校種について協議

要望

教育委員会で学校の位置や学校種を決定

要望提出後すみやかに

統合準備委員会(後期)

- ・先進地視察
- ・学校目標検討
- ・めざす子ども像協議
- ・教育課程検討

設計  
(新校舎建築の場合)

造成

校舎建設

4から5年程度

## 6、なぜ、5つのブロックに分けたのですか

### 令和22年度学校数の目安



## 7、学校数の目安に幅があるのはどうしてですか

概ね20年後を想定したブロックごとの学校数の目安

ブロック名 (現在の中学校区)	令和2 (2020) 年		
	小学校	中学校	義務教育学 校
北 (西中・北中(川東)・中ノ郷中・福部未来学園)	8	3	1
東 (東中・南中・桜ヶ丘中・国府中)	13	4	0
南 (河原中・千代南中)	5	2	0
西1 (北中(川西)・高草中・湖東中・湖南学園・江山学園)	8	2	2
西2 (気高中・青谷中・鹿野学園)	5	2	1
合計	39	13	4

令和22 (2040) 年	
小学校 (含義務教育学校)	中学校 (含義務教育学校)
5～7	4
9～10	4
1～2	1～2
5～6	4
1～3	1～3
21～28	14～17

児童数の将来推計に幅がある。

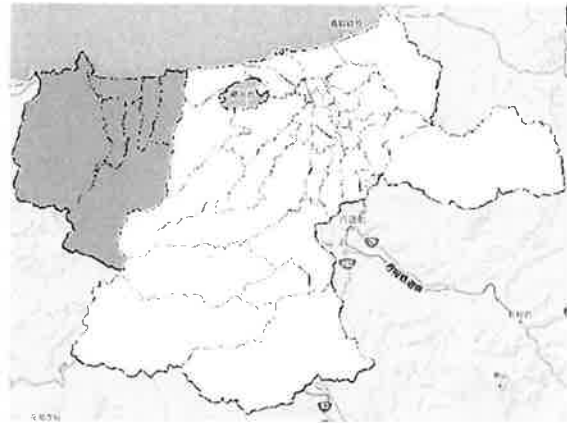
地域生活拠点に配慮

地域での協議で義務教育学校を選択するかしないかで幅が出る。

**(5) 西2ブロック【気高中・青谷中・鹿野学園校区】**

西2ブロックは、鳥取市西部の中山間地ブロックで、気高・青谷・鹿野がそれぞれ本市都市計画マスタープランの地域生活拠点に指定されている。過疎化による急激な人口減少が進んでいる。

本ブロックにおいて、令和2年度時点で、適正規模を満たしている学校はなく、複式学級がある小学校が3校存在する。



**【児童・生徒数等の現状と推計】 令和2（2020）年度→令和22（2040）年度**

小学校	【R2】		→	【R22】		
	児童数	学級数		全児童数	全学級数	学校数
宝木	71	5	→	380 ～ 570	18 ～ 24	1 ～ 3 (含義務教育学校)
瑞穂	47	5				
浜村	227	11				
逢坂	30	4				
青谷	181	8				
鹿野学園（前期）	153	7				
計	709	40				

中学校	【R2】		→	【R22】		
	生徒数	学級数		全生徒数	全学級数	学校数
気高	184	6	→	220 ～ 290	9 ～ 12	1 ～ 3 (含義務教育学校)
青谷	105	4				
鹿野学園（後期）	76	3				
計	365	13				

合計 1,074人